

Wikiprint Book

Title: Trac と mod\_wsgi

Subject: SilverFrost - TracModWSGI

Version: 2

Date: 06/04/26 07:03:34

## SilverFrost 目次

Trac と mod_wsgi	3
trac.wsgi スクリプト	3
基本的なスクリプト	3
複雑なスクリプト	3
推奨される trac.wsgi スクリプト	3
スクリプトのリクエストをマッピングする	3
認証の設定	4
基本認証	4
ダイジェスト認証	5
LDAP 認証	5
SSPI 認証	6
AccountManagerPlugin のログインフォームを使用した Apache 認証 ===	7
#UsingApacheauthenticationwiththeAccountManagerplugin'sLoginform	
例: バーチャルホストのルートが Trac である Apache/mod_wsgi 基本認証 ===	7
#Example:Apache/mod_wsgiwithBasicAuthentication,Trac beingattherootofavirtual host	
トラブルシューティング	8
最新バージョンを使う	8
SSPI および 'Require Group' 使用時に Trac を動かす方法	8
Trac と PostgreSQL	9
その他の資料	9

## Trac と mod\_wsgi

[mod\\_wsgi](#) は WSGI 互換の Python アプリケーションを Apache 上で直接起動させることができる Apache のモジュールです。mod\_wsgi アダプターは完全に C 言語で書かれており、すばらしいパフォーマンスを提供します。

### trac.wsgi スクリプト

Trac は以下に記すスクリプトによって mod\_wsgi のトップで実行されます。これらスクリプトは単なる Python ファイルで、通常は .wsgi という拡張子で保存されます。

#### 基本的なスクリプト

もっともシンプルな形式:

```
import os

os.environ['TRAC_ENV'] = '/usr/local/trac/mysite'
os.environ['PYTHON_EGG_CACHE'] = '/usr/local/trac/mysite/eggs'

import trac.web.main
application = trac.web.main.dispatch_request
```

環境変数 TRAC\_ENV は通常通り Trac environment のディレクトリを指定します (複数の Trac environment を含むディレクトリであれば TRAC\_ENV\_PARENT\_DIR を使うこともできます)。PYTHON\_EGG\_CACHE は Python eggs を一時的に展開するのに使用するディレクトリを指定します。

#### 複雑なスクリプト

複数の .wsgi ファイルを使用する場合 (それぞれのファイルに別個の Trac environment を設定するケースなど) は、os.environ['TRAC\_ENV'] に Trac environment のパスを設定しないでください。この方法を使うと、別の Trac environment のコンテンツが読み込まれたり、直前に表示した Trac environment のパスが使われてしまうことがあります。

この問題は .wsgi ファイルの内容を下記の通り変更することで回避できます:

```
import os

os.environ['PYTHON_EGG_CACHE'] = '/usr/local/trac/mysite/eggs'

import trac.web.main
def application(environ, start_response):
    environ['trac.env_path'] = '/usr/local/trac/mysite'
    return trac.web.main.dispatch_request(environ, start_response)
```

分かりやすくするために、このファイルの拡張子は .wsgi とすべきです。Apache にアクセス権を開放できるのであれば、このファイルは自分が所有権を持つディレクトリに置くこともできます。

Trac と egg ファイルをインストールしたパスが通常と異なる場合、それらのパスを以下の要領で wsgi スクリプトの先頭に記述する必要があります:

```
import site
site.addsitedir('/usr/local/trac/lib/python2.4/site-packages')
```

パスはインストールした Trac のライブラリに一致するように変更してください。

#### 推奨される trac.wsgi スクリプト

比較的堅牢で汎用的なファイルを生成するためには trac-admin <env> deploy <dir> コマンドを使用します。コマンドを実行すると必要となるパスが自動的に設定されます ([TracInstall#cgi-bin](#) 参照)。

#### スクリプトのリクエストをマッピングする

.wsgi スクリプトを作成したら、Apache の設定ファイル (例えば httpd.conf) に以下を追記してください。

```
WSGIScriptAlias /trac /usr/local/trac/mysite/apache/mysite.wsgi

<Directory /usr/local/trac/mysite/apache>
    WSGIApplicationGroup %{GLOBAL}
    Order deny,allow
    Allow from all
</Directory>
```

スクリプトは Trac environment のサブディレクトリにあります。

[Trac cgi-bin ディレクトリを生成する](#) のならば、Apache の設定ファイルには以下のように記述してください:

```
WSGIScriptAlias /trac /usr/share/trac/cgi-bin/trac.wsgi

<Directory /usr/share/trac/cgi-bin>
    WSGIApplicationGroup %{GLOBAL}
    Order deny,allow
    Allow from all
</Directory>
```

Apache がスクリプトを起動する為には、スクリプトが含まれるディレクトリまで完全に Apache がアクセスできなければなりません。WSGIApplicationGroup ディレクティブを使用すると、常に mod\_wsgi が作成した最初の Python インタプリタ内で Trac が起動することが保証されます。これは Trac で使用している Subversion の Python バインディングがサブインタプリタでは動作しないことがあるため必要になります。リクエストがハングし、Apache がクラッシュしたような結果が返ります。この設定を行った後は Apache を再起動しないと反映されません。

Apache, mod\_wsgi, Python 本体 (Trac とその依存ライブラリを除く) の設定をテストしたい場合、簡単な wsgi アプリケーションを使用するとリクエストが処理されているか確認することができます (以下に示す内容だけを持つ .wsgi スクリプトを使用してください):

```
def application(environ, start_response):
    start_response('200 OK', [('Content-type', 'text/html')])
    return ['<html><body>Hello World!</body></html>']
```

mod\_wsgi の特定ディレクティブの使用方法についての詳細は、[mod\\_wsgi's wiki](#) または [インストール例](#) を参照してください。

## 認証の設定

このセクション内では認証の設定方法をいくつか記述します。

Apache ガイドの [認証、許可、アクセスコントロール](#) も参照してください。

### 基本認証

Apache で認証を追加する最も簡単な方法は、パスワードファイルを作成することです。htpasswd プログラムを使用してパスワードファイルを作成します:

```
$ htpasswd -c /somewhere/trac.htpasswd admin
New password: <type password>
Re-type new password: <type password again>
Adding password for user admin
```

一番最初のユーザ以外は "-c" オプションは必要ありません:

```
$ htpasswd /somewhere/trac.htpasswd john
New password: <type password>
Re-type new password: <type password again>
Adding password for user john
```

`htpasswd` についての詳細は `man` を参照してください。

ユーザを作成した後、[TracPermissions](#) の記述通りユーザに権限を設定することができます。

Apache の設定ファイルの中にパスワードファイルを記述し、認証を有効にする必要があります：

```
<Location "/trac/login">
  AuthType Basic
  AuthName "Trac"
  AuthUserFile /somewhere/trac.htpasswd
  Require valid-user
</Location>
```

複数のプロジェクトを持っている場合でも、共通のパスワードファイルを使用することができます：

```
<LocationMatch "/trac/[^/]+/login">
  AuthType Basic
  AuthName "Trac"
  AuthUserFile /somewhere/trac.htpasswd
  Require valid-user
</LocationMatch>
```

Note: 'login' という名のファイルやディレクトリが必要なわけではありません。

[mod\\_auth\\_basic](#) も参照してください。

### ダイジェスト認証

セキュリティ強化のために、SSL を有効にするか、少なくとも "基本認証" の代わりに "ダイジェスト認証" を使用することを推奨します。

以下のように、`htpasswd` の代わりに `htdigest` コマンドを使用して `.htpasswd` ファイルを作成してください：

```
# htdigest -c /somewhere/trac.htpasswd trac admin
```

上記の "trac" パラメータは "realm" です。Apache の設定ファイルの `AuthName` ディレクティブで再度指定してください：

```
<Location "/trac/login">

  AuthType Digest
  AuthName "trac"
  AuthDigestDomain /trac
  AuthUserFile /somewhere/trac.htpasswd
  Require valid-user
</Location>
```

複数の environment を持っている場合、上記に記述した方法で、同じ `LocationMatch` を使用することができます。

必ず `mod_auth_digest` をアクティブにしてください。Debian 4.0r1 (etch) の例：

```
LoadModule auth_digest_module /usr/lib/apache2/modules/mod_auth_digest.so
```

[mod\\_auth\\_digest](#) も参照してください。

### LDAP 認証

Apache の [mod\\_ldap](#) 認証の設定ファイルは少し扱いにくいです。(httpd 2.2.x OpenLDAP: slapd 2.3.19)

1. Apache の `httpd.conf` に以下のモジュールをロードする必要があります

```
LoadModule ldap_module modules/mod_ldap.so
LoadModule authnz_ldap_module modules/mod_authnz_ldap.so
```

1. httpd.conf は以下のようになります:

```
<Location /trac/>
# (if you're using it, mod_python specific settings go here)
Order deny,allow
Deny from all
Allow from 192.168.11.0/24
AuthType Basic
AuthName "Trac"
AuthBasicProvider "ldap"
AuthLDAPURL "ldap://127.0.0.1/dc=example,dc=co,dc=ke?uid?sub?(objectClass=inetOrgPerson)"
authzldapauthoritative Off
Require valid-user
</Location>
```

1. Microsoft Active Directory の LDAP インターフェースを使用することもできます:

以下を LDAP URL に使用します:

```
AuthLDAPURL "ldap://directory.example.com:3268/DC=example,DC=com?sAMAccountName?sub?(objectClass=user)"
```

認証情報をチェックするために Apache にアカウントを提供する必要があります。

このパスワードは設定ファイル内のプレーンテキストにリストアップされるので、このタスク専用のアカウントを使用すべきです:

```
AuthLDAPBindDN ldap-auth-user@example.com
AuthLDAPBindPassword "password"
```

セクション全体はこのようになります:

```
<Location /trac/>
# (if you're using it, mod_python specific settings go here)
Order deny,allow
Deny from all
Allow from 192.168.11.0/24
AuthType Basic
AuthName "Trac"
AuthBasicProvider "ldap"
AuthLDAPURL "ldap://adserver.company.com:3268/DC=company,DC=com?sAMAccountName?sub?(objectClass=user)"
AuthLDAPBindDN ldap-auth-user@company.com
AuthLDAPBindPassword "the_password"
authzldapauthoritative Off
# require valid-user
require ldap-group CN=Trac Users,CN=Users,DC=company,DC=com
</Location>
```

Note 1: このケースでは LDAP 検索で複数の OU をまとめて取得するために、AD のグローバルカタログサーバ (Global Catalog Server) に接続しています (ポート番号が通常 LDAP で使用される 389 ではなく 3268 であることに注意してください)。GCS は基本的に "平らな" ツリーであり、ユーザが、どの OU に属するか不明な場合でも検索することができます。

Note 2: 有効なログインを持っているかの代わりに、LDAP グループに所属しているかを要求することができます:

```
Require ldap-group CN=Trac Users,CN=Users,DC=example,DC=com
```

関連ページ:

- [mod\\_authnz\\_ldap](#), [mod\\_authnz\\_ldap](#) に関するドキュメンテーション
- [mod\\_ldap](#), [mod\\_ldap](#) に関するドキュメンテーション。コネクションプールや共有のキャッシュを提供します
- [TracHacks:LdapPlugin](#), LDAP の [TracPermissions](#) を格納するプラグイン

SSPI 認証

Windows 上で Apache を使用しているのであれば、シングルサインオン機能を提供する `mod_auth_sspi` を使用することができます。SourceForge の [mod-auth-sspi プロジェクト](#) からモジュールをダウンロードし、パーチャルホストに以下を追記してください。

```
<Location /trac/login>
  AuthType SSPI
  AuthName "Trac Login"
  SSPIAuth On
  SSPIAuthoritative On
  SSPIDomain MyLocalDomain
  SSPIOfferBasic On
  SSPIOmitDomain Off
  SSPIBasicPreferred On
  Require valid-user
</Location>
```

SSPI 認証を使用すると、Trac のユーザ名が `DOMAIN\username` という形式になるので、パーミッションなどを追加しなおす必要があります。ユーザ名にドメインを入れたくない場合は、`SSPIOmitDomain On` と代わりに設定してください。

SSPI 認証に関する共通の問題: [本家チケット 1055](#), [本家チケット 1168](#), [本家チケット 3338](#) 。

[TracOnWindows/Advanced](#) も参照してください。

AccountManagerPlugin のログインフォームを使用した Apache 認証 ===  
`#UsingApacheauthenticationwiththeAccountManagerplugin'sLoginform`

まず、AccountManagerPlugin の [Login モジュール](#) と [HttpAuthStore authentication モジュール](#) の基本的な仕様を参照してください。

Note: `acct_mgr-0.4` より前のバージョンの AccountManager を使用していると、WSGI で `HttpAuthStore` を動かすことは難しいです。アップグレードを推奨します。

単一のプロジェクトに `acct_mgr-0.4` を使用した例:

```
[components]
; be sure to enable the component
acct_mgr.http.HttpAuthStore = enabled

[account-manager]
; configure the plugin to use a page that is secured with http authentication
authentication_url = /authFile
password_store = HttpAuthStore
```

Apache の設定ファイルはこのようになります:

```
<Location /authFile>
  ...HTTP authentication configuration...
  Require valid-user
</Location>
```

`authFile` が存在する必要はありません。前述の `HttpAuthStore` へのリンク先から、複数の Trac プロジェクトをサーバー上でホスティングした場合を説明する箇所などを参照してください。

例: パーチャルホストのルートが Trac である Apache/mod\_wsgi 基本認証 ===  
`#Example:Apache/mod_wsgiwithBasicAuthentication,Trac beingattherootofavirtual host`

上記の `mod_wsgi` のドキュメントには、Apache の設定例 a) Trac のインスタンスをパーチャルホストでサブドメインを作成して動かす例と b) Trac の認証として、Apache の基本認証を設定する例が記載されています。

例えば、`trac` を `http://trac.my-proj.my-site.org` としてホストし、`/home/trac-for-my-proj` フォルダから起動する場合で、`the-env` を作成するために、`trac-admin the-env initenv` コマンドを使用し、`the-deploy` フォルダを作成するために、`trac-admin the-env deploy the-deploy` コマンドを使用した場合です:

htpasswd ファイルを作成します:

```
cd /home/trac-for-my-proj/the-env
htpasswd -c htpasswd firstuser
### and add more users to it as needed:
htpasswd htpasswd seconduser
```

(セキュリティのため、このファイルはドキュメントルートにおきます)

以下の設定を含んだファイルを作成します。例 /etc/apache2/sites-enabled/trac.my-proj.my-site.org.conf (ubuntu):

```
<Directory /home/trac-for-my-proj/the-deploy/cgi-bin/trac.wsgi>
  WSGIApplicationGroup %{GLOBAL}
  Order deny,allow
  Allow from all
</Directory>

<VirtualHost *:80>
  ServerName trac.my-proj.my-site.org
  DocumentRoot /home/trac-for-my-proj/the-env/htdocs/
  WSGIScriptAlias / /home/trac-for-my-proj/the-deploy/cgi-bin/trac.wsgi
  <Location '/'>
    AuthType Basic
    AuthName "Trac"
    AuthUserFile /home/trac-for-my-proj/the-env/htpasswd
    Require valid-user
  </Location>
</VirtualHost>
```

Note: サブドメインが適切に動くようにするには、 /etc/hosts ファイルの変更や、ホストサーバの DNS の A レコードにサブドメインを追加する必要があります。

## トラブルシューティング

### 最新バージョンを使う

mod\_wsgi のバージョンは 1.6 か 2.4 かそれより新しいものを使用してください。2.4 以前のバージョン 2.X のブランチは WSGI ファイルラッパー拡張機能を使用する Apache の設定にいくつか問題があります。この拡張機能は Trac

内でスタイルシートのような添付ファイルや静的メディアファイルを提供するのに使用します。この問題の影響を受けると、添付ファイルは何もないように見えて HTML ページのフォーマットが機能していないように見えてしまったりします。他に 2

進数の添付ファイルが省略されてしまうといった問題も頻繁に起こります。mod\_wsgi に関するチケット [#100](#) と [#132](#) を参照してください。

Note: mod\_wsgi 2.5 と Python 2.6.1 を使用していると、システム上 (Apache 2.2.11 と Trac 0.11.2.1) で Internal Server Error が発生しました。Python 2.6.2 にアップグレードすることで ([こちら](#) で勤められています) 私の場合は解決しました。

-- Graham Shanks

もし 'mod\_wsgi' を Windows の組み込みモードでの使用や Linux 上で MPM worker と併用することを予定している場合、バージョン 0.3.4 以上が必要です。(詳細については、[#10675](#) を参照してください)

### SSPI および 'Require Group' 使用時に Trac を動かす方法

Trac を Win32 上の Apache で起動し、SSPI 設定して 'Require group' オプションを構成している場合、'SSPI0mitDomain' オプションはおそらく動作しません。Trac にユーザ名が認識されない場合は、'user' が 'DOMAIN\user' のように見えている可能性があります。

このような場合、以下のように WSGI スクリプトを修正すると解決すると思います:

```
import os
import trac.web.main

os.environ['TRAC_ENV'] = '/usr/local/trac/mysite'
```

```
os.environ['PYTHON_EGG_CACHE'] = '/usr/local/trac/mysite/eggs'

def application(environ, start_response):
    if "\\\" in environ['REMOTE_USER']:
        environ['REMOTE_USER'] = environ['REMOTE_USER'].split("\\\", 1)[1]
    return trac.web.main.dispatch_request(environ, start_response)
```

## Trac と PostgreSQL

mod\_wsgi アダプタを使用し、Trac のインスタンスを複数ホストしている場合に、PostgreSQL (もしかすると MySQL も?)をデータベースバックエンドとして使用していると、大量のデータベース接続が生成され、PostgreSQL のプロセスも大量に発生してしまうかもしれません。

荒々しい方法ですが解決策として、Trac が持つコネクションプールを無効化する方法があります。これは `trac.db.postgres_backend` の `PostgreSQLConnection` クラスに `poolable = False` と設定することで適用できます。

この方法を適用するために、Trac のソースを変更する必要はありません。以下に示す行を `trac.wsgi` に追加してください:

```
import trac.db.postgres_backend
trac.db.postgres_backend.PostgreSQLConnection.poolable = False
```

または

```
import trac.db.mysql_backend
trac.db.mysql_backend.MySQLConnection.poolable = False
```

この設定で Trac ページを生成した後にコネクションを捨てるようになり、データベースへの接続数は最小に保たれます。

この方法は推奨されたものではありません。 [mod\\_wsgi の IntegrationWithTrac](#) ページの最後も参照してください。

その他の資料

[mod\\_python のトラブルシューティング](#) セクションも参照してください。 Apache に関連する問題の多くは似通っていて、多くの場合 `mod_wsgi` を使用する [アプリケーション側の問題](#) です。 `wsgi` ページにも [Integration With Trac](#) ドキュメントがあります。

---

See also: [TracGuide](#), [TracInstall](#), [FastCGI](#), [ModPython](#), [TracNginxRecipe](#)